

CONTENTS

I. 第2回種苗生産懇話会報告

II. 1997, 9~1998, 9の種苗生産動向について

《'98'中国国際漁業博覧会を見学して》

III. 水槽温調設備について

IV. 新技術&新製品

V. ACN入会にあたって

《ACN会員企業名簿》

ACN	-----	1
ACN 総評	-----	2,3
田嶋 猛	太平洋貿易(株)	
平田雄一郎	(株)山一製作所	4
木村 正明	(株)田中三次郎商店	5
(株)ナテックス	-----	6

第2回種苗生産懇話会 (主催・ACN) 宮崎で盛大に開催される。

身近な体験談や各地の現況報告を通じて種苗生産者、熱い交流—

■ 去る8月20日ホテルプラザ宮崎において、第2回ACN各社と種苗生産者の懇話会が、盛大な内に開催された。

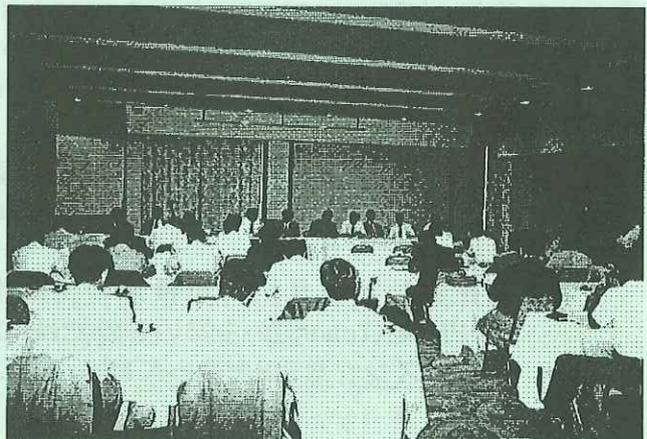
■ 開催にあたり、松本水産(株)の松本専務様より「種苗価格も生産量も共に低下している苦しい時期であるが、この会を通じ苦境を乗り切るヒントをつかみたい」とのご挨拶を頂いた。

ACNからは大阪魚市場(株)福田チームリーダーより「水産加工の現状、今後について」と日清飼料(株)首藤部長より「水産飼料の現状と今後の情勢について」報告を行い、活発な議論が取り交わされた。

■ 特別講演として湊文社代表池田様より「海外の種苗生産の現状と魚の流通状況」を体験論を踏まえた細かくユニークなお話を頂いた。フリーディスカッションでもさらに専門的な話題も取り上げられ、特にインドネシアの養殖について三井農林海洋産業(株)望月常務様から詳しい報告がなされた。

■ 盛大なうちに楽しい一日を過ごすことができました。この懇話会は、種苗生産事業に携わる方々にとって欠かす事のできない技術情報の提供と交換の場になるよう、今後共、定期的に開催していく予定です。

九州積水工業(株)古賀



Ⅱ. 1997, 9~1998, 9の種苗生産動向について

ACN総評

ヒラメ

- 昨シーズン; 1997年9,10月に出荷された超早場物は日清マリンテックと近畿大学(富山)が主体であった。

この種苗の価格がそのシーズンの基準となる傾向がある。但し、両者とも若干の問題を抱えていて今シーズン9月以降、昨年同様の販売ができるか疑問視される。

従来の早期物と言われた12月出荷の種苗(5cmup)は、100円/尾を維持するのが難しくなってきた。昨年11月の韓国WON暴落により輸入が急増し、ヒラメ成魚価格が低迷したことも種苗価格下落に影響している。

ヒラメ種苗の需要は、1500万尾程度に落ち着いており、種苗はやや生産過剰気味。

中国で自国消費向け生産が伸長しつつあり、その動向が注目される。

今シーズン; 国内、韓国とも800gサイズupが品薄で成魚価格の上昇と稚魚の不足を反映して10月は、池入れ稚魚の引合いが活発であるが10月下旬まではまとまった量の種苗供給はできないだろう。

マダイ

- 昨シーズン; 1996年9月から1997年8月までの養殖向け種苗生産量は、1億尾位と例年になく多かったことや、成魚価格の低迷の影響を受けたり、マダイ種苗販売は、山崎技研、ヨンキウ以外は苦勞するとの判断から、生産調整をした業者などで弱気傾向にあった。

5月になり前述の業者を含め大手が正常種苗の選別や病気のため出荷が減少し、又全体的に種苗が少ないこともあり在庫分はほぼ完売され、結果として需給のバランスがとれたようである。

現在数社が11月出荷用稚魚の生産中。この1年間の出荷量は5000万尾位で、価格は120円/尾(7cmup)から安いものでは60円/尾まで。

今シーズン; ヒラメと違って昨シーズンよりさらに低調な出だしである。

トラフグ

- 早期種苗はヒラメと同様に日清マリンテックと近畿大学を中心に3月から出荷が始まり価格は130円/尾であった。その後、ホルモン物の出荷が5月一斉に始まった。

ここ2年間の病気(痩せ病・口白病・白点虫)やホルマリン使用不可による歩留り低下のため経営体力、意欲を失っている所もあり種苗業者は販売に苦勞した。

価格は110円~60円~30円/尾。出荷数量は、1250万尾位で昨年に比べ20%減であった。

昨年同様に痩せ病・口白病が養殖場で発生しており天草地域で大きな被害が出ているため年末にかけて中間魚の引合いが活発になると思われる。

トラフグ種苗大手といわれているバイオ愛媛、長崎種苗、大島水産種苗の出荷量は150万~200万尾であった。

シマアジ

- マリンパレスは今年度285万尾出荷完了し、出荷時期が他の業者より遅いにも拘わらず人気・価格共に高い。

他の7社の出荷量を合計すると本年度は550万尾であり昨年とほぼ同数量であったが本年夏は、稚魚だけでなく2・3年魚もイリドの大被害をうけた。

種苗価格は270円/尾(7cmup)~180円であった。

アユ

- 昨シーズン；琵琶湖産アユ種苗の養殖場での大量斃死のため人工種苗に人気が出てきた。湖産アユは業者が敬遠したため導入種苗が激減し1~2円/尾まで値を下げた。その後値下げが好感され再度導入されたが結果的にはかなり死んだため今シーズンも人工種苗の導入が予想される。人工種苗の需要は2億尾以上あるといわれている。

今シーズン；昨シーズンから養殖業者が人工種苗生産に取り組み始めたため業者数は増加し、成魚価格が軟調になった。人工種苗に対する引合いは落ち着いたものとなっている。

その他：マハタ・中国スズキ

- マハタについては受精卵を譲り受けて種苗生産に取り組んだ業者があったがいずれも7日~30日までに稚魚は消滅している。

自家親魚をもっているところでも5cmサイズ以上の生産量は2000尾以内であり商業ベースに至っていない。

天然種苗価格が1000円以上する魚種であり他社に先駆けて万単位で生産できれば経営の向上に期待できる。

中国スズキは韓国向け輸出品として中国産天然稚魚の日本での養殖が盛んであったが中・韓の直接貿易の増加に伴い養殖は激減した。3業者が台湾及び国内の親魚から受精卵により人工種苗生産をただけである。

98' 中国国際漁業博覧会(1998.10.27~29)を見学して

太平洋貿易(株) 田嶋 猛

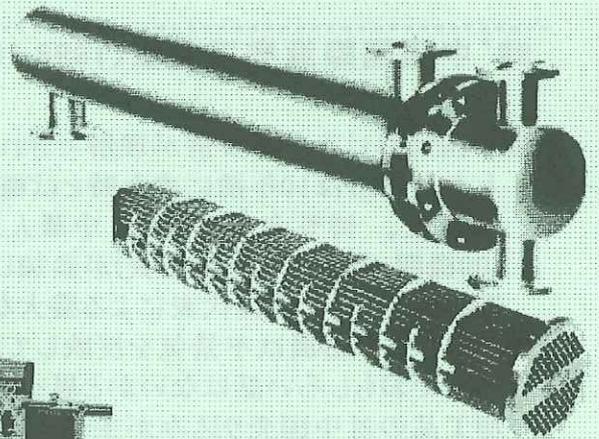
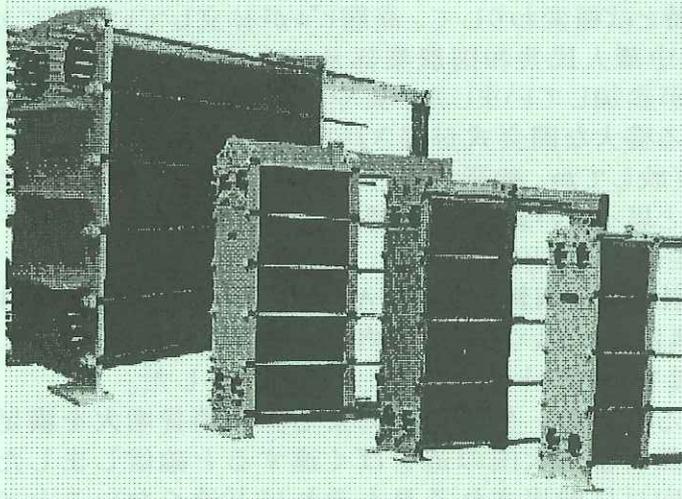
- 中国における水産事情が理解できればと考え大連市に行ってきました。人口400万人の大連市は10年前に来た時とは様変わりして、高層ビルが林立していたのには驚きました。博覧会主催者は、中華人民共和国農業部及び大連市人民政府で31カ国500機関・団体(主催者発表)が参加していました。爽やかな秋晴れの空のもとで、騎馬隊をバックに各国代表による盛大な開会式が催されました。
- 日本からの出展は不景気を反映してか、確認できたのは3社だけでした。種苗生産関連でおもしろい話はないかと思っていましたが、博覧会の目的は水産品及びその加工品の対中国売り込みが主体であると感じました。養殖資材・機材関連としてはアルテミア1社、円形生け簀1社、配合飼料2社及びACNメンバーである(株)田中三次郎商店でした。外国とは別棟になっていた中国国内のブースには数社が活魚水槽を並べていて、その内3社が養殖ヒラメとトラフグを泳がせていました。
- 中国は世界一の漁獲国であるものの、生活向上による国内消費増大を満足させるために水産品を含めて食品の輸入大国の道をばく進すると確信しました。日本からの養殖活魚が中国向けに輸出される日もそれほど遠くないことでしょう。(了)

Ⅲ.水槽温調設備について

平田雄一郎(株)山一製作所

- 加温設備については、全般的に一段落した感があり、一部で機器の更新、又は使用条件の変更のために増設、改良が行われる程度である。
加温方式についても、重油又は灯油焚きの温水ボイラーの温水によるもので、特別のものはヒートポンプ式のものもあるが極一部で小規模のものにすぎない。
熱交換器は槽内に伝熱管を敷設する方式のもので、固定・簡易取付・投込み型など使用目的に応じて設置している。
槽外に別置きする方式の場合は、循環加温が目的のものもあるが、加温海水をかなり大量に給水する使用目的のものも多くシェル&チューブ式やプレート式が代表的である。
即ち、大型水槽は別置形で海水を供給し槽内コイルで温度調整を行う併用方式となる。かなりの量の油を消費するので、今後はいかに省エネを行うかが課題であり、弊社としてもすでに数例の実施例があり有効な効果を上げている。
現場からの要請に対し、現地方式検討後に各現場に合わせた方式を提案の上施工することになる。
- 冷却設備については、ここ数年要望が多いがかなりの電気使用量となるため大規模なものは少なく、親魚の越夏対策・早期採卵の目的が大半かと思われる。
栽培センター等で中規模程度のものであるが、一般の生産現場においては採算上問題がある。熱源として冷却機が必須のものであり、どうしても電気を必要とするので大規模にはできないのが実状である。
又、環境保護の観点から冷媒ガスの規制が問題でありこの10年前後に現在のR-22も廃止の方向であるので、新規のガス開発及び冷媒機の開発について注意を要するのである。
加温の場合と同様、省エネとしての排熱回収が当面今後の課題であるが、加温よりコスト高なので尚更早期に検討する必要があるかと思われる。
生産現場の各々異なる状況に合わせて満足できる温調設備の提案を、続行する所存である。

プレート式



シェル&チューブ式

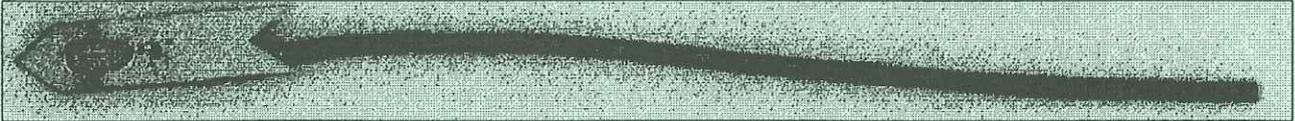
IV. 新技術&新製品

木村 正明(株)田中三次郎商店

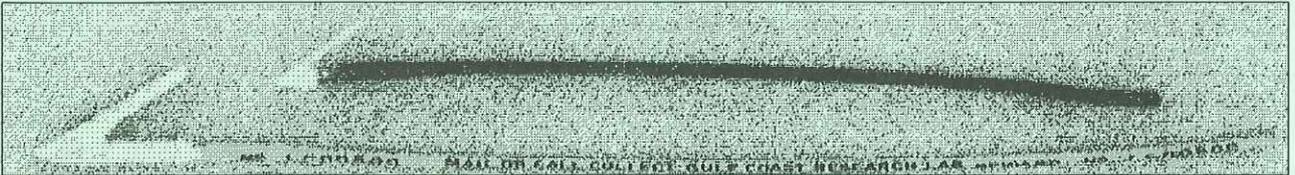
オーストラリアHallPrint社製外部標識の御案内

材質:ポリエチレン

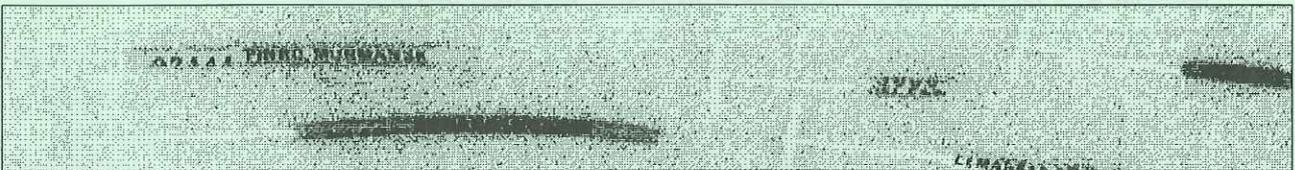
1. ステンレス ダート タグ (SSD)



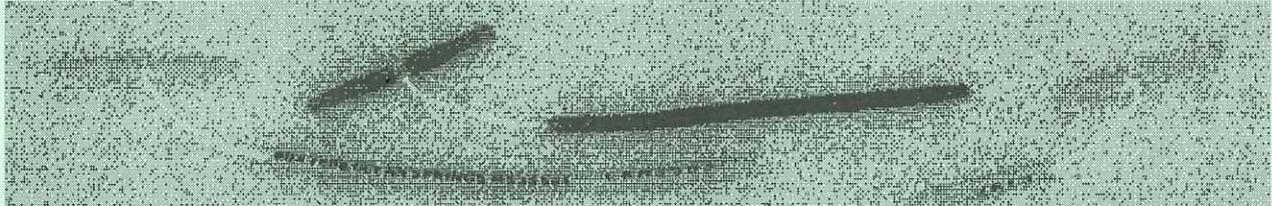
2. プラスチック ダート タグ (PDシリーズ)



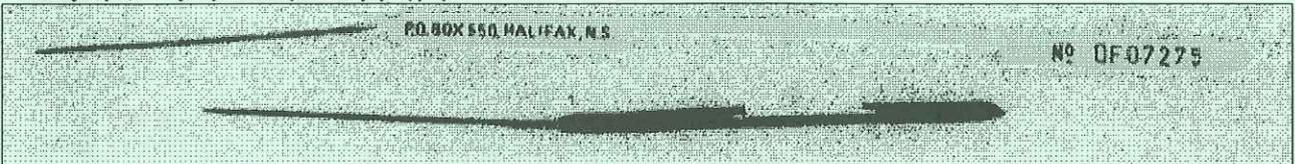
3. プラスチック T-Bar アンカー タグ (TBA & TBF)



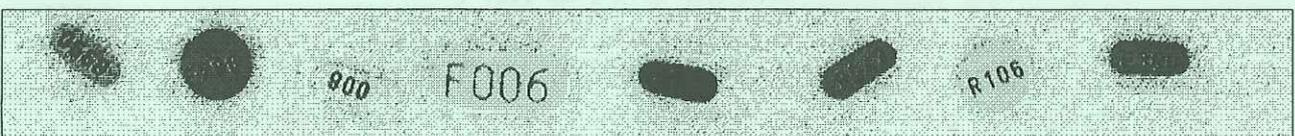
4. 腹腔装着用アンカータグ (IEX)



5. リボン タグ (PSTシリーズ)



6. グルー オン式甲殻類用タグ (FPN)



備考: 色の選択は可能です。タグのコードと文字の印刷(カタカナまで)は、お客様のご要望通りできます。受注ロットは1000本から。

お問い合わせは(株)田中三次郎商店まで御願います。

V. ACN入会にあたって

オリジナル製品群で種苗生産分野への貢献をめざして

ナテックス(株) 松井武夫[営業部1課]

◇この度、ACNへ入会させていただき、会員の皆様方にお礼申し上げます。

当社はマルハグループの一員として、昭和28年の創業以来、船舶・建築・水産資材用など各種の塗料製造から塗装工事まで一貫したシステムを持つマルチプルな技術集団として塗料分野で活躍して参りました。

昭和48年より脱塗料化を図り、魚網防汚材「ボウモウ」を発売し、微力ではありますが養殖業に貢献しております。

種苗生産事業におきましても、他社には無い当社独自のオリジナリティーを發揮した商品として、平成3年より「イオンエース」を販売しております。

当社は、種苗生産から養殖まで一貫し、業者の皆様が抱える問題の解決に真剣に取り組む、お役に立ちたいと考えています。

一昨年よりイオンエースをさらに発展させた、電気分解による銅イオン発生装置や水槽・塩ビ管に使用する無公害防汚塗料「アクアセイフティ」を販売しておりますので是非一度御試し下さい。

今回の入会を機に、ナテックス(株)は皆様方が優れた種苗を安定生産できます様、今まで以上に貢献して参ります。

以上簡単ではございますが、入会の挨拶とさせていただきます。

ACN会員企業 11社 (担当者)

上野製薬(株)	TEL092(281)7117 FAX092(281)1669 (歳森・長谷川) 福岡市博多区奈良屋町4番1号
大阪魚市場(株)	TEL06(469)2034 FAX06(469)2172 (福田) 大阪市福島区野田1丁目1番86号
クロレラ工業(株)	TEL0942(52)2191 FAX0942(52)2190 (重野・藤木) 福岡県筑後市久富1343番地
九州積水工業(株)	TEL0952(34)6150 FAX0952(34)6151 (古賀・片山) 佐賀県神埼郡千代田町柳島225-1
九州中央ヤンマー(株)	TEL092(441)0542 FAX092(441)0754 (武田・室越) 福岡市博多区西月隈1丁目5番8号
(株)サン・ダイコー	TEL0975(43)5532 FAX0972(44)1379 (山村) 大分市大道町3丁目23番地
太平洋貿易(株)	TEL092(731)6761 FAX092(731)6808 (田嶋・浅田・漁崎) 福岡市中央区大手門3丁目1番3号
(株)田中三次郎商店	TEL0942(73)1111 FAX0942(73)1911 (木村・大久保) 福岡県小郡市小郡1139-1
ナテックス(株)	TEL0832(66)6261 FAX0832(67)6192 (松井) 下関市彦島本村町6丁目10番6号
日清飼料(株)	TEL092(472)0201 FAX092(414)0178 (首藤・小林) 福岡市博多区博多駅前3丁目19番5号
(株)山一製作所	TEL093(601)7440 FAX093(601)6977 (平田) 北九州市門司区松原3丁目4番2号